

ナイジェリアでラッサ熱が流行(更新 2)

2012年4月4日 世界保健機関(WHO)、GAR 情報



世界保健機関(WHO)は、今年に入り、ナイジェリアでラッサ熱が流行していることを確認しました。3月22日現在、36州のうち19州から、死亡患者70名を含む疑い患者623名が報告されています。Irrua 専門家教育病院で実施した検査の結果、エド Edo 州の Irrua 地区で108名がウイルスに感染していたことを確認しました。死亡した患者には、医師3名と看護師4名が含まれています。この数値は暫定的なもので、疑い患者の結果しだいで増える可能性があります。

世界保健機関(WHO)は、ナイジェリアへの旅行や貿易の制限を勧告していません。ただし、流行地域から帰った旅行者で、発熱、気分不良、頭痛、咽喉痛、筋肉痛、胸痛、悪心、おう吐、下痢、腹痛の症状が出た者は、医療相談を受ける必要があります。

通常、ヒトへは、感染したマストミス *Mastomys* 種に属するげっ歯類を介して感染します。ヒト-ヒト感染は、その患者発生地区や医療機関で患者と直接接触することで感染します。最も感染するリスクの高いグループは、マストミスが発見された農村部の住民です。医療従事者も、十分な感染予防対策をとっておかないと、感染する恐れがあります。